

令和4年度 富士宮市立富士根南小学校グランドデザイン

- 全ての教育活動の根幹:「子供一人一人は、かけがえない存在である」
- 目指す子供像:「富士山を心に夢をもって生きる 富士根南中:こころざしをもち学び合う輝るの生徒」

1 令和4年度 グランドデザイン (Ver. 1)

- これから求められる力
- ◎OECD学びの羅針盤
- *社会的・文化的・技術的ツールを相互作用的に活用する力 ②③⑤
 - *多様な価値観に係るグループの人間関係の形成能力 ⑥⑨⑩
 - *自律的に行動する能力 ④⑦⑧
 - *新たな価値を創造する力 ②⑤
 - *対立やジレンマを克服する力 ⑤⑥⑨
 - *責任ある行動をとる力 ④⑦⑧⑩
- ◎ポストコロナの学校(中教審初等中等教育分科会)
- *ICTを道具として使い熟す)自律した学習者 ①②⑤⑧⑩
- ◎ESD(持続可能な開発のための教育)
- *課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪

- 本校の「強み」と「よさ」
- 子供 元気で明るく素直
仲間のよいところを認めることができる
親和的な自治的集団が形成されつつある
- 教職員 子供主体の授業づくりができてきた
組織的授業運営ができる
- 保護者 愛育会の組織力がある協力姿勢がある
- 地域 学校愛と協力姿勢がある
学校応援団組織がある

基本理念
自主・自律
協働・共生

学校教育目標 「夢を持って、自ら考え 共に学ぶ子」

富士根南小学校の子供たちに育てたい11の資質・能力

生きて働く知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
① 文章の意味を正しく理解する読解力	③ 情報を活用する力(「書く力」も含む)	⑦ 自分事として捉える力
② 生活や既習事項と結び付け、転用可能な知識・技能とする力(汎用力)	④ 自己決定・自己選択する力	⑧ 自己統制してやり抜く力
	⑤ 新たな意味や価値を見出し形づくる力	⑨ 他者を認め、思いやる態度
	⑥ コミュニケーション力	⑩ 仲間と協働し、よりよく生きる態度
	⑪ 自己を振り返る力・自己調整する力(メタ認知力)	

- 課題解決への具体策と改善方針・重点取組 (1学期)
- 学年マネジメントタイムについては、個々の子供の特性、学級の状況等を教職員で共通理解を深め、合理的配慮事項も含めた具体的な対応策を練り上げ、実践と検証を繰り返しながら指導できるようにする。また、教材内容の配列を特別支援・就学支援の資料ともリンクさせ事象の効率的な理解と指導の効果を最大化する。
- 子供が協働的な学習の学びにつながるICTを活用した家庭学習を単元計画に組み込んだ単元構想を学年マネジメントタイムにて作成して実践・検証する。協働的な学習場面では、「あたたかな話し方、やさしい聴き方」を徹底する。また、ICTを活用した校内の有効な実践例を紹介することで価値の共有化図り、一連の学びの一層の質的向上を実現したい。
- アクティブタイムを活用し、ステージ制による課題発見、協働的課題解決の意を徹底し、よりよく判断し行動する子供を育成する。短いスパンでのPDCAサイクルを徹底させ、振り返りを充実させて単元全体及び個人の自己調整力の育成を図っていく。各学年、学校の取組を紹介することで価値の共有化図り、一連の学びの一層の質的向上を実現したい。
- 学校にルールとリレーションによる居場所づくりを進めるとともに、リーダー役割の枠を係活動・学年実行委員会(3年以上)等の自治的な活動場面で増やし、どの子も学級(学年)にリーダー役割を通して集団に貢献させながら、全員にリーダーシップ・フォロアシップを育て、QJ診断(12月)まで全ての学級で「中体集団レベル」以上の状況とした。
- コロナ禍であることを鑑み、学校HPの「学校の様子」を毎日更新して、子供の学びの様子を発信し、保護者が教育活動の趣旨やねらいについて同時進行で理解を深め、子供のよりよい育成に学校と協働できる情報発信を目指す。



- 主な課題 (R3 学校評価より)
- 学年マネジメントタイムの活用状況は9割の職員が良好であるとしているが、「子供理解」については情報交換に留まり、学年経営目標の具現化の方策や手立てを講じ、課題を解決する活動を計画・実施・検証するまでにはなっていないところもある。また、特別支援対象児の対応についても個々の特性を踏まえた適切な組織的指導の一層の充実が求められる。
 - ICTを効果的に授業に活用している教員は73%に留まり、授業、学び合い(協働的な学び)につながる家庭学習を計画的に単元に取り入れることに難しさを感じている教員は30.8%であった。単元構想に位置付けた家庭学習と授業をつなぐリンク学習に1人1台端末を効果的に活用し、個別最適な学びと学校における協働的な学びの往還の実現が求められる。
 - (ATを活用した)自治的活動に係る話し合いが計画的に実施できた学級はR2より大きく改善したものの75%に留まり、ステージ制において学級(学年)で課題を見だし話し合いを経て課題を解決する意を子供主体でできた評価する教員も75%であった。自己調整力の育成につながるステージ制の効果的な振り返りについても一層の研究が必要である。
 - R3 2学期末のQJ診断では、54%の学級が「自治的集団レベル」として成立している状況にあったが、46%の学級がそこまで到達しなかった。リーダー役割の枠を係活動等で増やし、どの子も学級(学年)にリーダー役割を通して学級に貢献させながら全員にリーダーシップ・フォロアシップを育て、全ての学級で「中体集団レベル」以上の状況とした。
 - HP・メール配信などの改善により、学校からの情報発信に係る保護者評価は96.4%(R2比+3.8)と改善したが、コロナ禍、直接子供の様子を見られずに教育活動の意図が伝わらず不安に思う保護者も多い。地域・保護者と協働体制を築くため、加えて学校HPの平均アクセス数250人/日/日を維持・増進するために、情報発信の質の向上を図る必要がある。

学校経営目標の評価の観点(趣旨)	R3	目標値	1学期
・学び合う授業は楽しく、内容がよく分かる。(市共通)	93.2	95.0	
・授業に家庭学習(予習・復習・自主勉強)が生かされている。	81.6	85.0	
◎PCを活用した家庭学習は楽しく、進んで取り組める。	*	85.0	
・単元(授業)のゴールに向けて、自分の学びを調整できる。	87.3	90.0	
・「あたたかな話し方」ができる。	88.4	90.0	
・「やさしい話し方」ができる。	95.8	97.0	
・自分で考え、よりよく判断し行動することができる。	86.9	90.0	
・自分の行動を振り返り、次に何をすべきか自分で分かっている。	87.8	90.0	
・(学校生活の中に)自分で考え、進んで取り組める活動がある。	90.6	95.0	
・人に指示されることなく自ら行動できる。	84.2	86.0	
・じかん、きれい、ことばを意識して生活している。	85.4	88.0	
・新しい生活様式など、自分の健康を考えて生活している。	91.8	95.0	
・QJにおいて学級満足群65%以上、不満群10%以下	61/12	65/10	

短いスパンでのPDCA

自律した学習者

親和的な自治的集団



教育支援部	環境支援部
○ 特別支援教育・就学支援の違いを明確にした教育支援の質の向上 ○ 合理的配慮の組織的な取組によるインクルーシブ教育システムの構築 ○ いじめ・不登校早期対応システムの構築・効果的な運用の実現 ○ SC・SSW、関係機関等と連携した教育相談、拡大ケース会議の充実 ○ 自己調整力の育成を図る「あゆみ」の在り方の研究	○ 豊かな学びを創出するICT環境の工夫と整備(GIGAスクールの実現) ○ 安らぎを生む学校施設リニューアル(コミュニティルーム・掲示板・生活科室) ○ 感染防止に係る保健室改修、消毒作業徹底、関連物資の滞滞のない調達 ○ 大規模校のよさを活かした業務改善・働き方改革の推進(チームわみなみ) ○ 教育効果を最大限に引き出す適正な予算執行の実現、費用対効果の確
社会に開かれた教育課程の実現	
地域との連携(横の連携) □ 学校応援団(PTA+C)との協働 □ 地域の人的教育資源の積極的な活用 □ 通学路の防災・交通安全一斉点検と改善 □ 青少年健全育成協議会との連携 □ 登下校の安全確保(地域見守り隊との協働)	保護者・家庭との協働 □ 通学路の防災・交通安全一斉点検と危険箇所の選定・改善 □ 適時・適切な情報発信による保護者との協働体制の構築 □ 親子読書の日・ファミリースポーツデーの実施 □ 図書ボランティア等による図書館環境の向上 □ 愛育会の活動支援
幼保・中・高との連携(縦の接続) □ 幼保・小交流事業(ようこそ1年生)の実施 □ 小中連携・小中合同研修会の実施 □ キャリア教育の充実 □ 中学校体験入学、ようこそ先輩の実施	